



【私の節約自慢】

the Pride of my Economy

無理のない節約法

齋藤 美里

使わなくて良いものにはお金をかけず、使うべきところには躊躇なく使う!というのが私のポリシーです。

私にとって「使わなくて良いもの」の一つとして、利用できるものの買い替え、が挙げられます。例えば、現在使用している電化製品に関して言えば、学生時代から愛用している年代ものばかりです。もともと電化製品に興味は薄く、TVは見ることができさえすればいい、携帯電話は話ができてメールができれば十分と考えるので、TVは未だにブラウン管でVHS愛用者であり、携帯電話にいたっては修理に出した代用品と間違われる程、何世代も前の機種を使用しています。一方、私にとっての「使うべきところ」は、趣味やチャレンジしたいと思うことに関してかかる費用であり、海外留学をはじめ、挑戦したいと思うことに関してはあまり躊躇せず、まず実行してきました。そのため、「今度はあれに挑戦したいな」といった目的が見つかりと自然に出費を控えるようになります。最終的に節約になっているのかはわかりませんが、目的を持つことが、「使わなくて良いもの」の出費をおさえ、節約を心がけるきっかけとなっています。

余分な出費を控える、ということ以外に意識して節約することには無頓着な私ですが「節約」と考えずに日常の中で行っている行動はたくさんあるように思います。例えば、食料品は献立を決めてから買い物に出かけるのではなく、なるべく安いものやその日のお買い得品を購入してから後で献立を考えて料理しています。何気ない癖なので「節約自慢」とまではいきませんが、買い過ぎに注意をすれば、あらかじめ献立を決めておくよりも多少の節約になっていると思います。さらに、余ったおかずは翌日のお弁当として利用できるのも無理なく節約できて一石二鳥です。

また、趣味の一つとして、最近ではベランダでの家庭菜園(?)に挑戦しています。家庭菜園と言っても、初心者でも簡単に栽培できるハーブや大葉のみですが、使いたい時にさっと使え、節約にもなるのでとても便利です。

今回の執筆を機会に、今後は「使うべきところ」の使いみちについて考えながら、日常生活の中で意識して工夫していけるような節約術を見つけ、実践していきたいと思っています。

我が家のエコ

坂西 俊明

今、スーパーだけでなく、コンビニなどでもレジ袋削減の流れになっている。そんな流れが主流となる前から、我が家の妻はエコバッグを毎日持ち歩き、レジ袋や紙袋をもらわないようにしている。妻が持っているエコバッグはもう4代目。妻はその日の気分や服装で、持ち歩くエコバックを変えている。

ある日、妻の代わりに私が近所のスーパーに買い物に行く事になった。そんな私に妻はエコバッグを持って行くように強く勧めてきた。そしてエコバッグと共にスタンプカードを手渡してきた。なんでも、近所のスーパーでは、レジ袋をもらわなかった場合、1回の買い物につき1点スタンプを貰え、それが30点貯まると100円割り引きしてくれるとの事。もらったスタンプカードにはすでに半分以上スタンプが押してある。さりげなくそんなサービスを利用していることに驚く反面、こんな妻に任せておけば家計は安泰だと、安心した覚えがある。

しかし後日、妻と一緒に出かけた時に、妻が使用しているエコバックが売られているお店を発見した。ふと値札を見ると、1つ1500円と書いてある。エコバッグの素材感からして、1つ数百円程度と思っていた私は、衝撃を受けた。冷静に計算してみると、エコバック1つ分の投資を回収するためには、買い物を30×15回行わなくてはならない。それがすでに4個もあることを考えると、気が遠い数字となる。1500円のエコバックは割にあわない。

しかし、妻は全く気にする事なく、かわいいエコバックを見ると足をとめて吟味する。今後も我が家のエコバックは、増えていくのであろう。1500円のエコバックは家計には決して優しくないが、資源の節約という意味では、地球のためにはそれなりに優しいのであろう。ただ、これからは、家計に優しい節約術を考えて行きたい。



【私の節約自慢】

the Pride of my Economy

私の節約

工藤 莞司



私の年齢層では節約は当たり前のことだ。戦後に幼少期を過ごして、衣服や学用品のみならず、田舎と雖も、非農家では食料も十分ではなかった。そのような中で、祖母には、もったいない仕付けを受けながら育った。その後、経済の高度成長時代はその雰囲気にも飲まれて、もったいない思想は一時忘れて去っていた。しかし、加齢とともにまた頭を擡げて来たようだ。結構なことだと思っている。

他人様に自慢するような節約ではないが、一つは、不要となった裏白用紙の再利用である。これをメモ用として、机上やパソコン前、台所、寝室とそれぞれクリップ止めて、筆記具共々置いてある。それぞれ、スケジュールや防備録、懸案事項に閃いたとき、メモしたいときに、即座に書き込む。大学での失敗コピーなどの外に、様々な文書や資料、ちらしの類が舞い込んで、その大半は裏白である。今では、使い切れないほど家の中それぞれの箇所に置かれている。最近では、パソコン印刷用紙としても利用している。自分用資料や推敲用で、提出用でなければ十分に間に合う。したがって、印刷用紙を購入するインターバルが長くなったようである。

プリンター用インクリボンの使用が二つ目の節約である。現在のような仕事を続けていると、日頃からパソコンにはお世話に成りっ放しである。プリンター出力すれば、検索情報や作成原稿が簡単に印刷することができ、しかも、原稿は見た目には完成稿化してしまう。また推敲にはベストだ。従来はその都度印刷していた。ところが、インクの消耗が意外に速いのである。一色でもなくなってしまうとプリンターは使用できない。ある時、締め切りを過ぎた夜中に、インク切れが生じて往生したことがあった。それ以来、スペアを用意しながらも、極力印刷を押さえて、節約に心掛けている。インクリボンの費用も決して小さくはないのだ。

節約考

安野 弘明

思えば私は、あまり節約を意識したことがないようだ。何と云うか、質素儉約の陰に潜む浪費的反動形成が怖いからだろうか。そんな背反性と巧みに付き合うほどの素質が無い私は、とりあえず、節約思考をどこかへ追いやる。粗衣粗食がもたらす華美への衝動が生まれないようにする。道理で書くネタに困るわけだ。

そんな私でも、最近ふと、人に気づかされた節約がある。どうやらそれは私自身の生活習慣に拠るものらしい。

例えば、料理好きな私はあまり外食をしない。仲間同士で飲むビールはこの上なくウマイが、飲んだくれない。タバコは吸わない。土日は海に行かないと落ち着かないし、近距離ならタクシーを拾うより歩いてしまう方が気分が楽だ。そんな私を見て、ある人は言う。「長い人生、大事なものは、君みたいに健康的な生活を続けること。そして、病院に世話にならない老後を迎えること。それが結局は大きな貯金になるのさ。」「なるほど～（こんな節約自慢も面白そうだ。全く意識したことは無かったが、見方によっては人生をかけてじっくり節約しているようにも見えるのか。よし、この逸話について執筆しよう。）」

そんなことをモヤモヤ考えながら酒屋に向かい、廉価なホワイトリカーの前を素通りする。そして厚木の純米酒を買う。今年の梅酒は神奈川の美山錦で仕込もうと決めていたのだ。残念ながらそこに節約の入り込む余地は無い。突きつけられたそんな矛盾などお構いなしに、一年後の芳醇な香りに思いを馳せる。

節約に、私は完璧を求めない。「常に儉約しよう」と欲しても、破滅するだけだ、道徳的にも(トシュトルム)、である。そう考える私には、フロイト的無意識に導かれながら、「なんとなく節約生活」な健康生活をのんびりと続けていくのが性に合っているように思える。

いずれにせよ、このありふれた日常に、思わぬ節約自慢を見つけられた幸せ。さて、今年の梅酒も美味しくなりますように。



【私の節約自慢】

the Pride of my Economy

私の節約術

節約の申し子

節約とはそもそも、毎月の支出が収入よりも多くならないようにしたり、目的があってお金を貯めたりする為に行うものでしょう。これらに対する強い動機がないと、なかなか節約というのは出来ないものです。我が家には現在、その強い動機が欠けているので、「節約」の概念があまりありません。いっそ、「家を買う」クラスの大きなイベントでも企画してみましようか。しかし、ずぼらの粒が揃った我が家のことですから、それは泡と消えてしまうに違いないのです。

現在、我が家の家計は私が管理しています。夫は自分の稼いだお金の執着がないのか、毎月の給料日には自分のお小遣いと、電気代など夫の口座から引落しになっている分の金額を差し引いて、「今月の分」とポンと渡してくれます。ですから、夫の口座残高は増えることはありません。一方、私の稼ぎは、私のお小遣いと二人の貯金に化けます。この管理方法を友人などに話すと、もちろんとても驚かれます。「節約の申し子が全財産持って夜逃げしたら面白いんじゃない」と言う始末です。夫は私が夜逃げしない前提で、あえて管理能力を試しているのでしょうか。

数年前の私は、主婦1年生として家計簿をきちんと付け、節約を心がけていました。ところが、当初の目的であった「貯金」をし、その目的を果たした後は、かなアバウトな家計管理になってしまっています。このような状況の中、「節約」について書くネタを考えたときに、1つだけ実践していることがありました。

それは、「交通費」の節約です。徒歩30分の距離に出かけるのでしたら、公共交通機関は使いません。そうすると、運動にもなり一石二鳥です。私は東京メトロ日比谷線の沿線に住んでいますが、横浜へ出向くときは日比谷線の終点である中目黒駅まで歩きます。そして中目黒駅から東急東横線に乗って横浜まで行くと、私の最寄り駅から中目黒駅までの運賃、160円が浮きます。異なった会社の路線を乗り継ぐと運賃が高くなってしまいますので、その分を節約することです。往復で320円、なかなか馬鹿に出来ない額です。おまけに、健康への「切符」も付いてきます。それに、歩きながら目的地へ向かうと、町並みの面白さ、草花の息吹なども感じられるので、いいことづくめです。

蛇足ですが、「私の節約術」もう一つありました。それは、外へ飲みに行く時には、あらかじめ家で1、2杯のビールを飲んでいくことです。そうすると、トータルの飲み代が安くなります。あまり皆さんにお勧めはしませんが…。この話をすると、大概の人には呆れられてしまうのです。当たり前かもしれないですね。へへへ。健康への切符で、キセル乗車はいけませんね。こちらの節約術は忘れることにしましょう。

貧乏性の節約術

B型娘

このテーマについて書くことになったとき、私には「節約している！」と自慢できることがほとんどないことに気がついた。節約めいたことを始める事はあるが続かない。また基本的に自分の快適さを優先してしまう。

例えば、私は会社で一日にコーヒーを3杯くらい飲むので、自分でお湯を使ってインスタントコーヒーを作った方が買うより節約になると思い、今年に入ってタンブラーを買った。だが、暑い夏になると、氷の入った冷たいコーヒーが飲みたくて、結局現在はまた自動販売機でコーヒーを購入している。外食した際も、自宅じゃ食べられない料理なのだからと、節約を考えることも無く、思うままに食べたいものを注文するし、タクシーなども、飲んで帰った日などはつい乗って帰ってしまう。家までたったのワンメーターの距離なので、歩けばよいのだが、夜道は危険だしと、もったいないという気を紛らわせて利用している。

そんな私だが性格が幸いして無意識に節約をしているのでは？と思うことはある。

それは、自分の中で各商品の基準金額を意識して、それを守って買い物することである。例えば、日常消耗品の買出しの際、ティッシュペーパーは 円以下でないと買わない、マヨネーズは××円でないと買わないなどだ。最近主婦の間でも、食材の最安値を入力しておける携帯サイトなどがはやっているようで、その最安値リストを見ながら買い物し、食費を節約する方法があるようだが、私の節約法もまさにそれと同じである。

私のこういった基準は消耗品だけでなく、洋服や、旅行、その他いろんなものにあるので、かなりの節約が出来ている。しかも貧乏性なのでおそらくたいの物の設定価格は他の人より低い。

そういう基準金額(あくまでも自分の中でのものだが)を意識することで、ドカンとお金を使うこともなく、毎月の使用金額をだいたい同じくらいにすることができていると思う。単なる貧乏性で、気に入ったものをバーンと買えない性格なだけなのだが、同じものを高い値段では買わないし、基準より高いもので気に入ったものは、安くて同じものがないかをまず探す。これが私の節約術だと思う。